

2024年度男女共同参画センターはあもにい

第1回運営審議会 議事録

1. 2024年7月10日(水)10:00～12:00
2. 熊本市男女共同参画センターはあもにい 4F 会議室
3. 出席者
 - ◆ 運営審議会委員(10名 五十音順)
阿部広美委員 井手志保委員 岩永秀則委員 小野由里委員 北村眞理子委員
阪本恵子委員 本田恵介委員 松本充右委員 宮村飛伸委員 森紀子委員
 - ◆ オブザーバー
熊本市文化市民局人権推進部男女共同参画課 課長 上村奈津子、主査 内田加奈子
 - ◆ 事務局
 - ・代表企業A 尾池千佳子(九州総合サービス株式会社 代表取締役)
欠席:太田勇雄(九州総合サービス株式会社 取締役部長)
 - ・構成企業B 内尾淳(熊本産業文化振興株式会社 常務取締役)
河野正治(熊本産業文化振興株式会社 事務局次長)
 - ・構成企業C 藤井宥貴子(有限会社ミュージズプランニング 代表取締役)
館長:吉田稀世
副館長(兼 総務管理課課長):田中誠一
舞台事業課:課長 安藤陽介
維持管理課:課長 寺本祐矢
企画事業課:課長 田中美帆、主任 岡田佳子、宮脇利充、鈴木与施子、小野誠実
総務管理課:島浦萌
4. 会次第及び議事内容
 - (1) 代表あいさつ(はあもにい管理運営共同企業体代表 尾池千佳子)
 - (2) 館長あいさつ(館長 吉田稀世)
 - (3) 審議会委員および出席者紹介
 - (4) 審議
 - 議題1 はあもにい管理運営状況について
 - ・会館運営状況報告
 - ・質疑応答
 - 議題2 令和5年度事業報告、6年度事業計画について
 - ・質疑応答

議題3 その他

・質疑応答

5. 特記事項

議事録の署名に関しては、森委員、小野委員が推薦され、議会承認となった。

6. 議事録

議事進行:松本委員

● 議題1 質疑応答・審議

(本田委員)

駐車場システムについて、落雷によって故障したのは去年の何月頃か。修理に半年ぐらい時間がかかっている。簡単な修理ではない。施設が老朽化してくると、日常的にいろんなところに不具合が出てくる。指定管理料は切り替えごとに変わると思うが、修繕費については予算をむしろ増やしていただかないと指定管理者としては、ちゃんとした設備、施設として利用者の方に提供できなくなってしまう。市にはご理解いただいて、財政との折衝も頑張っていたきたい。

(熊本市男女共同参画課課長 上村)

駐車場の表示板の故障時期は、手元に資料がないので正確にいつとはお答えできないが、令和4年の夏頃の落雷で故障したと記憶している。修理にかかる費用を十分に賄える予算がなく、緊急性も高くなかったため、翌年度に予算を確保して令和5年度に修理完了という経緯となった。施設の修繕費を確保できるよう、財政当局と協議していきたい。

(松本委員)

アンケートの自由記述に「16年間利用させてもらって、アンケートはいつも出していますが、あまり意味がないみたいです」という指摘もあった。はあもにいの考えや対応を知りたいと思う。ホームページで公開するとか、会館に掲示するなどフィードバックの方法や条件について知りたい。

(事務局 副館長田中)

ホームページで公開をしている。また、1階のロビーに張り出しをし、どなたでもご覧いただけるような形を取っている。また、ご質問ご意見がある中で、答えられる部分については、対応内容も載せている。ただ、費用がかなりかかるものや工事が必要なものについては、対応が難しいが、将来的には市と相談して対応できればと考えている。

(阿部委員)

幼児室利用者数の推移について、平成 28 年は一時期増えている。一方で、利用来館者数のグラフを見ると、平成 28 年は地震の影響で落ち込んだとある。来館者数が減って、幼児室の利用者数が増えているのはなぜか。

(事務局 企画事業課田中)

当年、ゴールデンウィーク明けから集約避難所がはあもにい内に開設された。利用人数は減ったが、会館自体の運営は出来ていたので、支援者に向けての託児をしたかったが、難しい現状があり、親子利用として幼児室の開放をした。幼児室のスタッフも待機し開館時間は、家の中の片付けや、子供が余震で怯えるなど、そういったことから少しでも逃れたいという母親のために、幼児室を開放した。その中で、色々な団体からの協力も得て、ワークショップをしたり、お母さんへの相談会をおこなったりした。そのため幼児室の人数が夏ぐらいまで増え、人数が加算され平成 28 年は幼児室の利用者数が増えている。

(小野委員)

アンケートについて、私たちも自分の団体ではあもにいを予約することがある。ホームページで予約状況を確認するが、アンケートが載っていることに気づいたことがない。トップ画面を見る限り探せない。アンケートを書き込まれた方に、ここに載せていますという何かしらの連絡をされているのか。それとも連絡はせず、基本的に載せているので、調べたい人は見てくださいというスタンスなのか。せっかく載せているのであれば、見ようと思う方がたどり着けるような作り方をしないと見ることがない。また、幼児室に関して、現在の設定よりも上の年齢の託児だと、そこまで負担がなく可能なのではないか。例えば、熊本市の学童保育とかも数年前までは 3 年生までだった。子どもを 1 人で家に置いておくのが不安だと考える親が多いことからの年齢設定ではないか。今年もはあもにいフェスタに私たちの団体も参加するが、土曜日に会議が 2 時間ある時、小学生の子どもも一緒に連れてきてもいいと言われるが、小学校 1、2、3 年生が 2 時間静かに過ごせるかという現実的ではない。かといって 1 年生の子どもを 1 人で家に置いて来ることは出来ない。小学生なら部屋に 2 時間いても、そんなに保育士の手を煩わせることはないと思う。3 年生まで託児の年齢枠を増やしていただくと助かる団体や関係者が多いのではないか。また、玄関前のロータリーで一時停車をしていい場所がない。幼児室を利用する方は、有料駐車場を確保出来るとか、玄関前に一時停車が出来る場所を特別に作り、子どもと荷物を幼児室に預けることが出来るなど、どちらかの対応がないと有料駐車場が埋まっていた時に、第 2、第 3 駐車場まで行くのは遠い。雨の中無料駐車場まで行って、0 歳と 2 歳を連れながら歩いてくるのは、心が折れる。幼児室の利用と合わせて、駐車場の対応を検討いただけると嬉しい。

(松本委員)

ホームページを見てみるとデザインが古い。

(事務局 館長吉田)

ホームページについて、頻繁に色々な情報を上げているが、参照の機能や改修の検討など各所から要望をいただいている。予算の問題もあるが、指定管理者になった当初のまま古い形のホームページなので、見直しについて検討をすすめたい。小学生低学年の預かりに関して、以前から要望がある。会議などの場合は、職員で見ることが出来るのであれば部屋を用意するなどをし、またルーテル大学にご協力いただいて、学生のボランティアを募集し、子どもの預かりが出来ないか等相談している。運用の方法がまとまったらお知らせする。駐車場についても、確保ができるかどうか含め、市と協議していきたい。

(森委員)

食品加工室について、ドイツ製の調理器具が使えない状態という説明があったが、今調理ができない状態なのか。それとも、今後も修繕の見通しが見つからないことで事実上使えない状態なのか。

(事務局 副館長田中)

利用はできるが、一部の特殊な機材が使えない状況。古い外国製の機材のため部品がない。食のアトリエでは通常の家レベルの調理はできる。

(事務局 館長吉田)

婦人会などが大きなものや試作品を作るのを想定して、最初色々な機材が導入されたのだと思う。現在、必要とされる団体はいないので、食品加工室ではなくて、食のアトリエで不便はないと考えている。

(森委員)

稼働率について、コロナ禍前の水準まで近づいてきているが、来館者の総数としては5万人ぐらいの落ち込みがある。その理由はなにか。

(事務局 舞台事業課安藤)

コロナ以降は、来館者数がかなり減った。ホールや貸室は、通常であれば、ほぼ満席になるが、全体的にオンラインや配信などの普及に伴い、半分ぐらいしかお客さんが入らない状況が続いた。そのため利用回数は減っていないが、利用者数は大幅に減った。

(小野委員)

食のアトリエを数回利用したが、食品加工室という存在には気づかなかった。ホームページの施設案内に、備品一覧があると良い。

(事務局 副館長田中)

ホームページの改善を検討する。

(北村委員)

企画事業について、子どもも参加できるようなイベントがあることを知らなかった。親がスキルアップや自己充実のための講座では、子どもを預けられ、また親子参加イベントもあるということ、広くアピールしていただきたい。

(阿部委員)

はあもにいの公式 LINE はあるか。

(事務局 館長吉田)

公式 LINE はない。市と協議、相談しながら検討をすすめる。

● 議題 2 質疑応答・審議

(小野委員)

令和 5 年度の事業報告の一覧に、全事業の講座参加満足度と、講座テーマ理解度が書いてあるがどう計算されたものなのか。

(事務局 企画事業課田中)

参加満足度は、講座後のアンケートによる「とても満足した、満足した、満足しなかった」という回答の集計結果。理解度に関しても、講座後のアンケートで受講前の理解度を、1 から 5 段階で回答していただく。そして受講後、自分の感覚として 1 から 5 で理解度の変化を質問している。ただ、参加者全員が回答したのではなく、一部の方がアンケートを返している。回答いただいた人数で割った計算方式。

(小野委員)

寄せ植えの時は、寄せ植えがメインではなくて父親の参加についての理解度でよろしいか。

(事務局 企画事業課田中)

はい。それぞれ講座で設けているテーマをアンケートに書いている。

(阿部委員)

これからの男性の生き方に関する講座で、企画についてクレームの電話率も高くとあるが、どんなクレームか。

(事務局 企画事業課田中)

メンズカレッジを発信してから 3 件程度あった。すべて男性からで、1 つはタイトルが上から目線ではないか。あるいは、企画にというよりは、男女共同参画というものに不満がある方からであった。

(阿部委員)

キャサリンのノンアルコールバーについて、男性のモヤモヤを語り合う座談会で、はあもにいが主催する意味をどのように考えているのか。目標を達成するような仕掛けなど考えているのか。

(事務局 企画事業課田中)

講座参加や会館利用のアンケート結果、男性が会館に来ていないという現実があるため、まずは男性に来ていただくことが第一と考えた。今年は、男性の生き方に関する講座に関しては、市民グループ企画のみんなの編み物という団体が、男性向けに編み物をする企画を開催予定。また、パパと一緒にリトミックやパパと考えるスポーツジュニアの健康と食事を企画している。まずは男性に、はあもにいのことを知っていただく必要がある。私たちも男性の意見を聞く機会が少なかったという

思いもある。ご指摘にもある通り最終地点をしっかり計画したい。

(阿部委員)

男性が疎外感を感じているのはわからないでもないが、大前提として、これまでの社会は、男性の意見だけで回ってきた。女性の意見をもっと社会の中心部に届けていくために男女共同参画社会を推進していく流れの中であって、とにかく来てほしい、男性の意見を聞きたいというのは、はあもにいがする企画として不安を感じる。

(事務局 館長吉田)

モヤモヤを聞いて終わりではなく、男性が抱えている辛さには、男らしさの呪縛だったり、マンボックスに入ってしまったことに気づいてもらうことも必要だと思っている。男性社会の中で、女性だけが抑圧されているわけではなくて、男性も抑圧を受けている。その抑圧は自分たちが作っているのだということに気づいてもらうきっかけにもなると思っているが、入り口が「モヤモヤを語る」なので、そこまでもって行けるかどうかということが不安材料ではあるが、女性だけの意識改革だけではなくて、男性に向けての意識改革というのも取り組んでいきたいと思っている。

(本田委員)

メンズカレッジの応募率が低いということだが、どこに向けて PR をしているのか。どの年代の男性を求めているのか。これからの若い男性や学生など、今小さい子どもを育てているお父さんたちに向けて、どうすればもっと足を運んでくれるかを考えた方がいい。

(宮村委員)

メンズカレッジの初回に参加した。当時は、職場で女性の理解を得る男性を育成したいということで企業に話をしてもらった。就業時間の一部として参加するものだったと思うが、今はどうなっているのか。

(事務局 企画事業課田中)

昨年までのメンズカレッジは、企業研修として就業時間を使っただけの参加を考え、平日の午後に設定していた。非常に参加率が低く、かつオンラインであったため顔出しをしない、呼びかけても反応がないなどあり、参加はしているけれど、果たして画面の向こうにいるのか疑問に思う状況であった。そこで昨年はコロナも落ち着いてきたことで対面にした。これまでに参加した受講生や、講師を通じて大学生へ声をかけたり、企業にも声をかけたが、大体 50、60 代以上の参加者が多く、またリピーターが多かった。子育て世代、学生などにも来てほしい。ここを呼ぶためのアドバイスをいただきたい。

(宮村委員)

メンズカレッジは、どういう人を対象にするかがブレている。内容的にも、襟を正してくださいという内容。この企画段階で、怒られるのがわかっているのに、休みの日に来るかと言ったら来ない。かっこいい大人になれるような講座を開いてほしい。かっこいい大人になるための講座だったら男性は

参加するのではないか。

(小野委員)

今の 20 代、30 代の男性は、個々によるが、育児に参加することが普通になってきている。20 代、30 代の父親を取り込みたい企画と、40 代、50 代の父親を取り込みたい企画は内容も変わってくる。キャサリンズも難しいと思う。専門家の話の方が刺さる。講師を男性にすると、同じ言葉でも男性の心に届きやすいのでは。

(阿部委員)

男女共同参画に繋がるような企画でいいなと思った企画が、編み物。母親が家事をしている家庭がすごく多い。例えば、キャラ弁講座や掃除のプロの方を講師になど、普通ではできないような家事育児を、プロフェッショナル的に出来るようになるのもいい。どんな形で参画していくかは人それぞれだと思う。料理教室で、若い世代と 1 つ上の世代が一緒に試してみ、会社では自分の方が上で指示しているが、こういう場に来ると若い世代の父親の方がなんでも出来るところを見て、自分もやらなければならないような企画があってもいいと思う。

(井手委員)

対象者は男性と表記しているが、講師に親しみがある人だったり企画に興味がある人だったら、男性も女性も関係ないのでは。LGBT や男女共同参画の取り組みをしているので、性別で分けず世代別などにすると参加しやすくなると思う。家庭の環境で片親の方もいると思う。

(岩永委員)

駐車場のアンケートで、車で来館する方が圧倒的に多い。色々改修等される機会があるなら、立体駐車場にできないか。また今年ウィメンズカレッジが 11 期目を迎える。県事業の kumadonna も今年ちょうど 11 期目となるので一緒に集まれたらいいと思う。

(阪本委員)

会館利用者アンケートの中で、好意的な意見は若い方が多く、年齢が上がるほど意見が厳しくなるということだったが、はあもにいの存在意義や取り組みが、若い方にも伝わるといい。